



子供が主語になる学びとは

校長 筒井 陽子

朝晩の寒さも日に日に増し、冬らしい季節となりました。

10月下旬から本校ではインフルエンザが流行していましたが現在は治まり、子供たちも元気に活動しています。引き続き、教室環境を整え、手洗いとうがいを励行し健康に気を付けて教育活動を進めて参ります。

さて、本校では学校課題研究のテーマを「子供が主語になるこれからの教科指導とは」と掲げ、教員の指導力の向上をめざした校内研修を進めています。今年度は、国語、算数、生活・みらい学習科、体育の4部会に分かれて研究しています。

子供たちが未来を切り拓き、思い描く幸せを実現していくためには、「自ら課題を見つけて、自ら考え判断し、行動できる能力を身に付ける」ことが重要となります。そのためには、教師が主導する授業から子供が主体的に思考・活用していく「子供が主語になる学び」が不可欠となります。そこで、本校では「自らの学びを自分で調整する児童」「共に学ぶことのよさを実感する児童」をめざし、「目標達成のために自らの学習を計画・実行・評価・調整できる力」の育成について研究しています。

そこで、去る11月5日には生活科、11月19日には算数科と体育科の授業研究会を行いました。

生活科の授業研究会では、1年生の子供たちが自分でできるお手伝いについて考えたり、もっとレベルアップするにはどうしたらよいかをグループの友達と話し合ったりしていました。自分でめあてを決めてお手伝いの計画を立てることができました。

4年生の算数科では、図形の学習をしていました。いろいろな四角形の特徴をとらえる過程で平行四辺形と台形の特徴を友達に分かるように説明することができました。

また、体育科では、自分の技をより上手にできるようにするために、自分に合った跳び箱を選んだり、自分の跳んでいる様子を動画に取ったり、友達からアドバイスをもらったりしながら、意欲的に活動することができました。

保護者の皆様、地域の皆様には、今年も学校教育活動への温かい御支援と御理解賜り、心より感謝申し上げます。引き続き、後期後半もよろしくお願ひいたします。

寒さ厳しき折、どうぞ御自愛いただき、良い年をお迎えください。